

(別紙4(1))

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや(2F)		
所在地	盛岡市本宮字小幡92-1		
自己評価作成日	平成23年1月5日	評価結果市町村受理日	平成23年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100022&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100022&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年2月9日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の時間作り、支援はしているが、利用者の状況が変わり、困難な場合も見られる。</li> <li>・行事などで家族と過ごす時間を支援している。家族も協力してくれ、行事に積極的に参加してくれる。</li> <li>・内服を減らす取り組みをしている。</li> <li>・毎日散歩をし、地域の方々と挨拶したりして、地域も協力的で、恵まれている。</li> <li>・日中は施設しない取り組みをしている。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階、2階とそれぞれの特性を踏まえた人員配置がされており、ユニットとしての機能を発揮するための配慮がなされている。就業における環境は良好で、所長をはじめとする職員間で、互いの意見を聞く体制が出来ており、更に本部に具申する体制も出来ている。また、職員の気づきを職員全員で検討し、改善に向けた努力がなされ、成果を上げている。また、開所当初から、身体拘束廃止に向けて取り組んでおり、周辺の交通量には激しい変化があるが、利用者の尊厳を守るため施設せずに見守りで対応している。</li> <li>・事業所主催のイベントを開催し、地域の方々の協力や多くの参加を得ていること、近隣の中学校、高校の生徒との交流を図るなど、地域に根付いたホームづくりに努力している。</li> <li>・ボランティアとしての「若者サポート」(求職中の青年)の活動を受け入れている。</li> </ul>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みんなで考えた理念「和・輪・話」を大切に、全員が確認できる場所に掲げ、日々のケアにあたっている。ミーティングやカンファレンスで毎月確認している。	大きく書かれた理念が階段通路と、共有スペースに掲示してある。また、ミーティングの資料に記されている。常に理念を念頭におき、日々の業務にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時にご近所との挨拶、地域の文化祭や花壇作りなど町内行事に参加、地域ボランティアとの交流、ほっともとみや夏祭りに地域を巻き込んで行っている。防災訓練も主催し地域住民と行った。	事業所主催の夏祭りには、子供たちを含め、近所の方々の多くの参加を得ている。中学生の福祉体験学習受け入れをした際の生徒達からの感謝の手紙が掲示してあった。県の事業である若者サポートを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生(2校)による福祉体験の受け入れ、若者サポートの受け入れ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で町内会長・民生委員・市の担当者・ご家族が参加し、施設行事や予定など報告し、意見を伺い、職員全員でサービス向上に生かしている。	会議は2ヶ月に1回開催している。委員から活発な意見が出されている。服薬管理等(薬の朝と夜の飲み間違い)の報告には「単純なことをしっかり守りなさい」と意見を頂き、職員で改めて確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、支援・指導・意見交換を行っている。	運営推進会議に出席して頂くほか、支援・指導を受けている。また、スプリンクラーを設置するため、指導を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修へ参加し、拘束をしないケアに取り組んでいる。ご家族に契約書で説明している。夜間以外は施錠していない。	身体拘束廃止の研修へ職員を参加させている。ミーティングで報告を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。一度、家族が拘束帯を持参し希望されたことがあったが、職員の尊厳を守りたいという思いにより、1回使用しただけで中止したこともある。以後、拘束帯等の使用はしていない。身体拘束の勉強会は継続して行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修へ参加し、ミーティング等で話し合いをし、虐待防止をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作っていないが、知識として理解している。現在、利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安を解消するため、疑問があればそれについて説明し、同意の上契約・解約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは信頼関係を築き話している。ご家族等は面会時、アンケート・コミュニケーション、毎月の報告の手紙・広報を出している。	「今を大切にしたい」というホームからの呼び掛けに、一層、家族との交流が増え、思いや意見を話してくれる家族が増えてきている。毎月、家族へ利用者の1ヶ月の様子を記録し、郵送している。(利用者の様子を伝える)記録の担当が毎回かわることも好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングをし、福祉部会・理事会など現場の職員・理儀が出席し意見・提案をしている。	利用者の喜ぶ顔が見たいと言うのが職員のコンセプトにあり、いつでも、どんなことでも言えて、聞く体制が出来ている。最近では、空気の乾燥防止のために加湿器が導入された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には職場環境・条件の整備を訴えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などに参加し、ミーティングで報告している。他の職員と話し合いながら、できる環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とスタッフの交流研修を通してそれを活かし質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集し、本人を理解した上で、傾聴できる関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接にて、家族と十分に話し合いをもうけ、不安を取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今何を支援してもらいたいか、プランを立て、サービス内容を把握し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごしなが、解り合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで築いてきた家族関係を理解し、本人と家族が良い関係でいられるよう、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好きだったことを知り、話題にしたり、高校の文化祭を見学し合唱を聴いたり、同窓会へご家族が同行して参加したりしている。だれでも面会しやすい様にしている。	利用者が、ホームに入居した事で、家族関係が良好になり、喜ばれている方もいる。旅行会には、家族も含め、50人程の参加があり家族から継続を希望されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、楽しい会話のできる雰囲気作りをしたり、ゲームなどをして利用者さん同士も仲良く楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から連絡が来たり、現在のケアマネージャーから情報をいただいたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全・健康を確保し、本人の希望を叶える様、支援している。困難な場合でも少しでも叶えようと努力している。	「ことば」を大切にし、一対一のコミュニケーション等で本人の希望、意向を把握、出来る限り叶えられるように努めている。対応が難しい場合は、代替え(絵を見に行きたい=写真集を見る)することもある。昼食時は、利用者、職員の会話がにぎやかであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報を集め、以前と同じ環境に近い状態作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プライベートの時間も大切にしながら、皆で楽しく過ごせるよう、リビングの環境を整えている。毎日の記録により、心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で本人のやりたいことや出来ることを把握し、月に一度のカンファレンスで話し合い計画の作成に生かしている。	研修に参加した職員から、これまで問題点を主体にしたプランの作成が多かったかのはとの反省が出て、見直しを始めている。ケアの質の向上に向けて、努力されている様子がうかがえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のチャートの記録で日々の様子や変化を把握し、会議の記録、連絡ノートにて情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人の要望を家族に伝えたり、家族に電話をしたい、もしくは家族からの電話など自由に話をしてもらっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協 ほっともとみや

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアや大正琴サークルの慰問、地域中学生の訪問によるゲームなど、一緒に楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医、協力医と情報交換しながら急変時にも態様出来る体制を整えている。	かかりつけ医の定期的受診等、家族の都合が付かない場合は通院支援も行っている。かかりつけ医とは良好な関係が築けている。通院支援の結果は家族に情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	8月までは訪問看護を利用していたが、9月から看護師を配置して看護師と共に健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と情報を共有し、早期に退院出来るよう努めている。(2Fは入院者1年間なし)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との信頼関係のもと急変時・終末期ケアも考えている。	利用開始時に、重度化に向けた説明をし同意を得ている。半数の方が、最期までホームで暮らしたい希望を持っており、希望に添えるよう体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	頭部打撲について家族との周知は文書にて交わしている。救命救急(AEDの訓練含む)の受講をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地域の方を含めて、避難訓練(昼・夜間想定)をしている。3月には地域で行う防災訓練に参加予定である。	定期的に避難訓練を実施している。3月に、本宮地区の防災訓練に参加する予定である。近隣の介護施設との連携も考慮している。消防署の指導で、ホームの中での避難訓練も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを尊重し、相手の立場に立ち、プライドを傷つけないような言葉かけや行動している。	一人ひとりのプライバシーを尊重し、活動が少ない方には、時に、気付かせる言葉をかけたり、また時には、距離を置いたりそれぞれの個性に合った声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人が自分の思いを表現出来るような雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の好きな事(絵を描いたり、読書、テレビを観たり等)が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の美容院を利用したり、行きつけの床屋を利用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの好きな人、片付けの好きな人個人に合わせ、一緒に楽しみながら手伝っていたりしている。食べ物の硬さや好みに応じたメニューにしている。	1階と2階で同じ献立でも、買い物はそれぞれで対応し、食材は異なっている。また、調理担当の職員により、味付け、量も異なっている。食事中は冗談も出て、にぎやかに会話している。また、自主的に片付けに立つ利用者もいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成・使用して、一人一人の状態を見ながら食事を出している。場合によっては声掛けをし、介助にて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・介助にて口腔ケアをしている。年に一度歯科検診を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 岩手高齢協 ほっともとみや

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン個々の利用者の様子から把握し、車いすの方でも日中は綿パンを使用している。個別に誘導しチェック表を作成し記入している。	開所からの利用者もあり、介護度の変化はあるが、出来るだけトイレでの排泄を支援している。職員の熱意ある取り組みもあり、2名の方が、リハパンから布パンツに状況が改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維を多く取るよう心掛けている。毎日、散歩・ラジオ体操など運動にリ支援している。医師のもと下剤を服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者の希望に沿うようにしている。いつでも気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	利用者の希望に応じ、いつでも気持ちよく入浴していただけるよう支援している。午前中入浴される方が多い。入浴を嫌う方には、さりげなく誘導し入浴してもらい声掛けが上手な職員もあり、清潔保持もうまく実践されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室を自由に行き来出来るようにしている。休みたいときは自由に休める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用のある薬を内服している利用者は特に注意している。顔色や表情など日々観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなで歌を歌ったり、ゲームをしたり、食べたい物を聞いて食事に出したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物など好きな方には一緒に出掛けたり、天気の良い日はドライブに出掛けたり、なるべく本人の希望を叶えられるよう支援している。今年は大型バスなどを貸し切り、青森の浅虫まで家族も参加し出掛けた。	天気の良い日は30分を目途に、近くの観音様、お地蔵様まで散歩している。去年は、利用者や家族、職員で大型バスで旅行し、大変喜ばれた。参加者から、泊まりで温泉に行きたいと希望が出ている。外出(エスケープ含む)に同行し、支援も行っている。(3時間を超えることもある)	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談して、本人がお金を持っている方がいる。欲しいものを聞いて買ってきたり、本人と出掛けて買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を出したり自由に出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には季節の飾り付けをし、手造りの物なども置いている。また、空気の入替えをしたりカーテンを利用して光の調整、加湿器を購入し湿度の調整もしている。	居間・食堂には、家族が撮影した風景写真が展示され、片隅には元野球の監督であった方のために、紙で作ったボールとグローブ等も置かれている。利用者に馴染みの深いものが様々置かれている。ゆったりとしたソファで思い思いにくつろいでいる。窓が大きく明るい日差しが差し込んでいた。また、乾燥防止のための加湿器も置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室の為、一人の居場所も確保できている。また、ソファの設置により利用者同士が話をしながら楽しく過ごせる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物タンスや思い出の写真、仏壇など、自由に持ち込みできる。	ベッドを利用している方、いない方(転倒の危険がある方は、マットレスと布団)の違いがあるが、テレビ、タンス、写真等思い出の品を持ちこみ、居心地良いお部屋づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えばトイレ・居室などに表札を設置し「わかる」ようにし、トイレで排泄「できる」ように工夫し、「できること」は本人にやってもらっている。		